

ギブ・アンド・テイク

滋賀大学経済学部 近藤 豊将

ギブ・アンド・テイクは世の中の基本である。我々は日常、コンビニエンス・ストアなどで買い物をするが、それはお金をギブ（提供）し、商品をテイク（獲得）する行為に他ならない。多くの学生達は、放課後、アルバイトに出掛けるが、それは労働サービスをギブし、お金をテイクする行為である。ギブ・アンド・テイクにより、（お金や労働サービスを含む）様々な商品が世の中を流通し、我々の生活が支えられているのである。これなしでは、社会は決して機能しない。

市場では、等しい価値のモノ同士のギブ・アンド・テイク、すなわち等価交換が基本となる。例えば、時給が800円なら、労働サービス1時間と800円が等価であると市場で評価されているということだ。等価交換により、売り手と買い手の双方が得をしているのである。

ところが、市場を一步離れた現実の多くの場面では、何と何が等価であるのか、不明確な場合が少なくない。隣の奥さんに子守りを手伝ってもらったとき、同僚に仕事を代わってもらったとき、どれだけのお返しをすれば等価なのか、どのような返し方をすればよいのか、よくわからないこともあるだろう。一意的な解が存在しない場合も多いのである。

そのような現実の中で、我々は、目先のテイクにばかり目を奪われがちである。あれが欲しい。これが欲しい。有名な会社に入りたい。高い給料が欲しい。だが、仕事は楽な方がいい。休みは多い方がいい。人に（自分のために）ああして欲しい、こうして欲しい……。これは、商品は欲しいけれどもお金は支払いたくない、800円は欲しいけれど働きたくはないと言っているのに等しい、わがままな思考と言えよう。

確かに、目先の損得にこだわって他人を押しつけられれば、短期的には、人より多くのものを得られることもあるかもしれない。しかし、ギブなきテイクを一生維持することはできないのではないだろうか。人生、最終的には帳尻が合うのではないだろうか。ちようじり

自分の一生をかけて、世の中に対して誰かに対して、何を与えることができるのか、どのような貢献ができるのか。それを真剣に考えた人だけが、長期的には、より多くの大切なものを獲得できる。少なくとも、私はそう信じたい。

（平成二十一年一月八日）